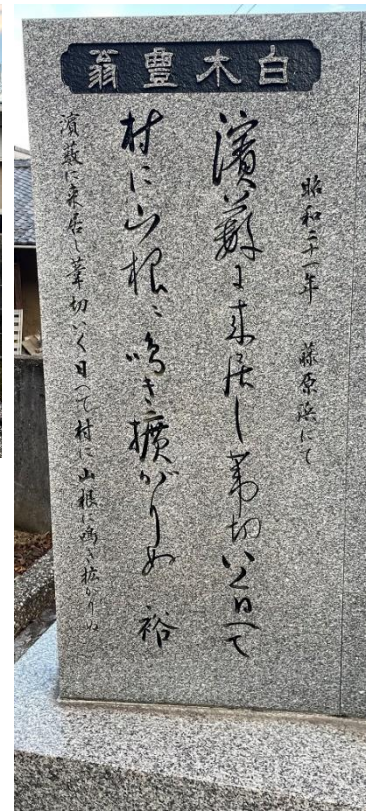


白 木 豊



藤原出身の白木豊は、愛媛師範を卒業後、宇摩郡内の小学校や松山の高等女学校などで教師として教育に携わった。その後、34歳で上京し、大東文化学院高等科で学問を深めた。卒業後、岡山県の閑谷学校に赴任し、孔子の遺徳をたたえる「釋菜の儀（せきさいのぎ）」を整備再興するとともに、漢学の振興に尽力した。

広島高等師範学校教授在任中に被爆し、妻子を失い帰郷。新制の清寧（せいねい）中学校の初代校長を努め、その後、実践女子大学教授などを歴任した。

漢学の大家として、斎藤茂吉に師事したアララギ派の歌人としても有名。土居中学校と三島高等学校の校歌を作詞、尾藤二洲研究の第一人者として「尾藤二洲伝」を著している。

小富士公民館にある「小富士村出身三先哲歌碑」に「濱藪に 来居し葦切 いく日へて 村に山根に 鳴き拡がりぬ」の歌が、近藤篤山、安藤正楽の歌と並んで刻まれている。

また、左の写真は、小富士小学校校長室にある白木豊の書である。